



渡辺 大直

に取り掛かった。

子どもの頃から後片付けや整理整頓は大の苦手だった。机のまわりは散らかり放題でよく親に叱られたものだ。「三つ子の魂百まで」というが、今もさして変わらない。原稿を書くたびに資料探しに大騒動し、資料や書きつづいた原稿で足の踏み場もない。それが重なる、いつしか收拾不能になる。

博物館はいつでも必要な資料を提供でき、展示を更新できるよつに所蔵資料を整理しておかなければならないが、これも後回しにしてしまう。

リニューアル工事のために一時退避しておいた資料を資料室に戻したものの、まだ段ボールに詰まったままのものもある。さすがにまずいと思い、昨年暮れあたりから整理

示もほとんど美方郡のものばかりだ。ところが城崎郡は但馬牛の一翼を担ってきた。今でも但馬牛の多様性を広げるキーを握るのは、城崎郡に由来する遺伝を引き継ぐ牛たちだ。そんなことから、城崎郡の資料を探しているところ

それは畜産試験場但馬分場長だった神原亀松氏が、要らなくなった書類を数枚貼り合わせ、裏に手書きで記した系図で、部下の村田敏夫氏が受け継いだものだ。

「よし蔓」が「よし」とその息子「第四相谷」「第六相谷」によってつくられたこと

によるのだろうか。系図は3部構成で、同心円状に広がる独特の形をしている。博物館に展示している「あつた蔓系図」と同じように牛の生年月日や飼い主の名前もあり、昭和20年代に書かれたようだ。

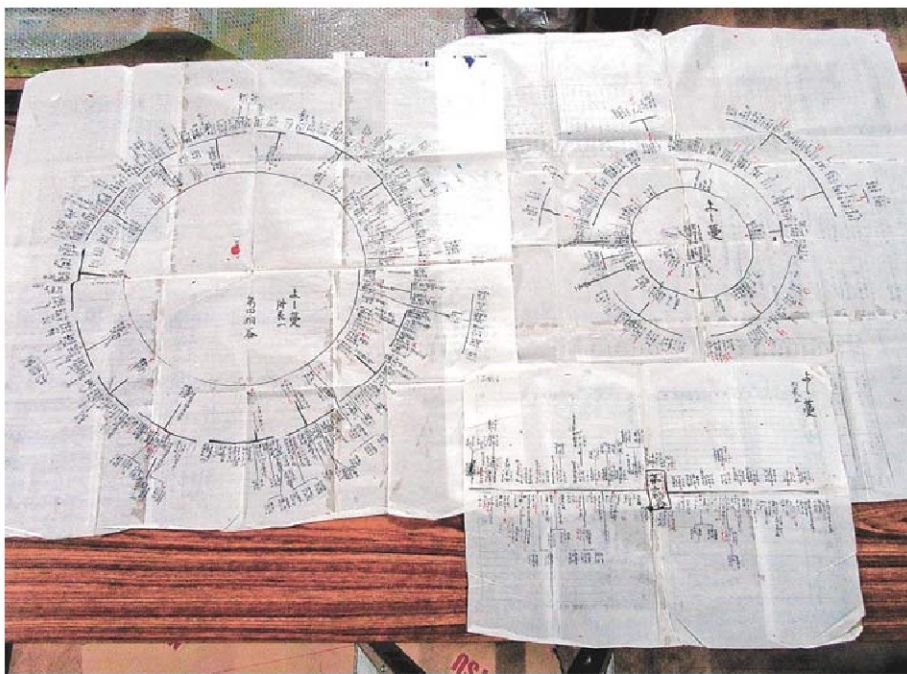
畜産課の係長をしていた時、村田敏夫氏に牧場公園に持って行ってほしいといわれ、いくつかの段ボールに詰まった資料を荒木館長に届けたことを思い出す。荒木館長は、系図が入った封筒に「村田文庫 よし蔓家系図」とラベルして、台帳に整理してくれていた。なのに今まで気が付かなかった。

「たまには棚卸しをしてみるものだ」と先輩に言われたようだ。

見つけた系図をどんな展示にしようかと思いをはせ、宝探しのようなワクワク感も少し持ちながら、苦手な資料整理を再開した。

■筆者プロフィール■
わたなべ・ひろなお
1954年、新温泉町浜坂出身。県職員として畜産行政に長年携わってきた。県立但馬牧場公園「但馬牛博物館」館長。

資料整理で見つけたお宝



よし蔓系統図